

はらから 同 胞

学校教育目標

- ・◎規律ある生活と学習 (創造 知)
- ・◎真剣な取り組み (友愛 徳)
- ・◎くじけない心と体 (勤勉 体)

「岐宿っ子の教育週間」に思う 自分を大事にし、他の人も大事にできる人間

今日から一週間「岐宿っ子の心を見つめる教育週間」が始まります。教育相談、PTAの挨拶運動、外部講師の講話、青少年劇場参加、道徳の公開授業など、盛りだくさん計画していますので、ぜひ学校に足を運んでください。(詳細は、以前配布した案内状に記載しています。案内状がない方は電話でお尋ねされても結構です。82-0051)

＜全校朝会での話から…＞

みなさんは、よく「命を大切にしないさい」と言われますが、命って具体的に何だと思えますか？と聞かれたらどう答えますか。みなさんは、心臓が動いていること、脳が動いていること、息をしていること、ご飯を食べられること、運動や勉強ができることなど、いろいろな「命の証明」となるものを挙げると思います。

そこで、あえて言うなら、命とは「みなさんが使える時間、そして今使っている時間」こそが、みなさんに「感じる命」だと思えます。もし命がなかったら時間を使うことができませんし、生きているという実感が湧かないと思えます。

ところが、この使える命の時間というのは、人によって短かったり、長かったりすることがあります。しかし、大事なことは、自分の命の時間を自分らしく使えるかどうかです。たとえ、病気をしたり、怪我をしたり、悩んだり、悲しんだりしても、自分の使える時間を自分らしく精一杯使うことが自分の命を大切にすることにつながるのです。

それは、「私たちは、たった1つの尊い目的を果たすために、この世へ生まれてきています。」世界中には何十億人という人がいますが、だれ一人として目的がなく生まれてきた人はいないのです。一人一人、それぞれに目的を持って、そしてこの世で必要とされて生まれてきているのです。ですから、その目的を果たせるよう毎日を精一杯生きていかなければならないのです。

最後に、「ひび割れ壺」というインドの童話をスクリーンで流しました。自分も、家族も、学級の仲間も、部活動の仲間も、みんな一人一人目的

があって生まれてきているのです。「自分を大事にし、そして他の人も大事にできる人間」になってほしいと願っています。

生徒のみなさん、「もがく」とは…

あるテレビ番組で「もがく」ということを題材にした放送が流れていました。「もがく」とは、もだえ苦しむ、事態を打開するの2つの意味がありますが、普段は前者の方がよく使われているようです。

放送の中で解説者が「最近、もがくという言葉があまり聞かなくなってきた。昔の人はよくもがいていた。そして、もがきを自分の成長の糧にしていた。ところが、最近はもがく前に逃避する人が多い。そして、もがく環境も少なくなっている」という話をしていました。

生徒のみなさん、私たちの生活はいつも楽しいときばかりとは限りません。辛いとき、きついとき、悲しいときなど、日常生活ではマイナスな気分になるときもあります。そのようなとき「自分で、もがいて打開する。」そんな前向きな生き方を目指してほしいと思います。

テストでも、部活動でも「終わってからが大事。その結果をどう生かすか？」

あるバレーボールの監督さんが「試合でも、テストでも、終わってからその結果をどう生かすかが大事」と言っていました。私たちは、よく結果に一喜一憂して喜んだり、悲しんだり、悔やんだりして、それで終わりにすることがあります。それはそれと当たり前のことで、自分の気持ちを体や表情で表現できることは大変素晴らしいことだと思います。

とは言っても、私たちは過去と現在と未来という時間の流れの中で生きています。未来には夢があります。そして、誰もが夢を叶えようと自分なりに努力をします。そんな時、「いろいろな結果」を参考に、今後の方向性や取り組み方を考えます。「終わってからが大事」というのは、すなわち何事も結果をどう生かすかで、伸びもするし、後退もするということではないでしょうか。